

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月20日

 **古河機械金属株式会社**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

決算および予想(連結)

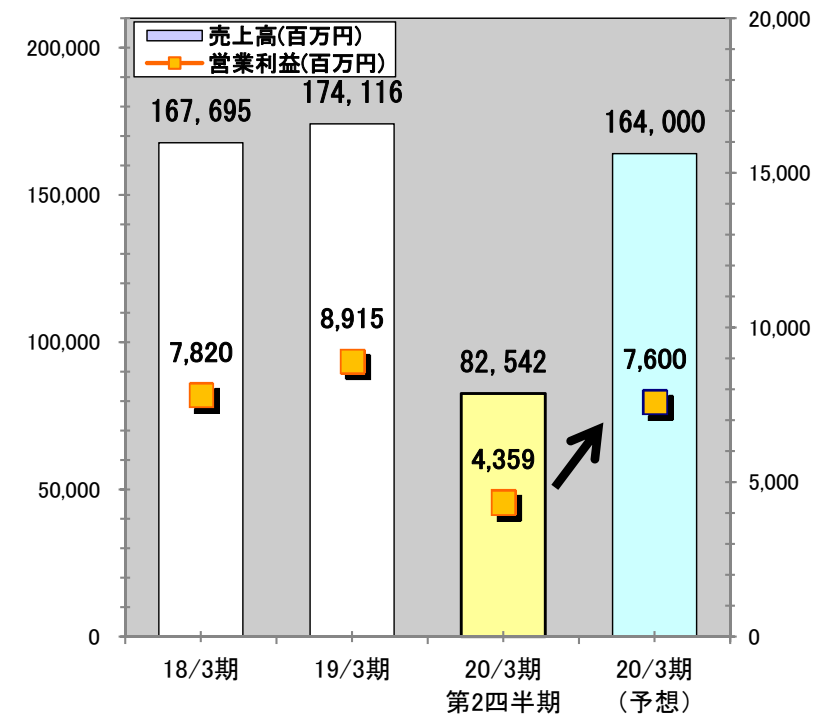
【業績】

(単位:百万円)

	19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期	対前年同期 増減	19年3月期	20年3月期 予想	対19/3期 増減
売上高	86,258	82,542	△3,716	174,116	164,000	△10,116
営業利益	3,905	4,359	453	8,915	7,600	△1,315
営業利益率	4.5%	5.3%	0.8%	5.1%	4.6%	△0.5%
経常利益	4,218	4,431	213	8,235	7,200	△1,035
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,964	3,122	158	4,654	4,800	145

【財務状況】

		19年3月期	20年3月期 第2四半期	対19/3期 増減
総資産	百万円	215,368	208,741	△6,627
純資産	百万円	80,447	80,389	△57
自己資本比率	%	36.3	37.4	1.1



部門別業績(連結)

〔売上高〕

(単位:百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期増減
機械事業	37,119	40,791	3,672
産業機械部門	7,182	9,961	2,778
ロックドリル部門	15,656	14,405	△1,250
ユニック部門	14,280	16,424	2,144
素材事業	47,090	40,164	△6,925
金属部門	40,670	33,931	△6,739
電子部門	3,283	2,832	△451
化成品部門	3,136	3,401	265
不動産事業	1,630	1,221	△409
その他	418	365	△53
合計	86,258	82,542	△3,716

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期増減
機械事業	2,547	3,489	942
産業機械部門	294	979	685
ロックドリル部門	972	388	△583
ユニック部門	1,280	2,120	840
素材事業	751	579	△172
金属部門	269	306	36
電子部門	240	△8	△248
化成品部門	241	281	40
不動産事業	702	374	△327
その他	△62	△48	13
調整額	△32	△34	△2
合計	3,905	4,359	453

	2019年3月期 第1,2四半期実績	2020年3月期 第1,2四半期実績	対前年同期増減
銅 価	6,487 \$ / トン	5,956 \$ / トン	△531 \$ / トン
為 替	110.3円 / \$	108.6円 / \$	△1.6円 / \$

産業機械部門受注残

	2019年3月期 第2四半期会計期間末	2020年3月期 第2四半期会計期間末	対前年同期増減
受注残	137億円	131億円	△6億円

金属部門の金属価格変動影響による損益について

	2019年3月期 第2四半期累計期間	2020年3月期 第2四半期累計期間	対前年同期増減
営業利益	2.6億円	3.0億円	0.3億円
内価格影響分	1.9億円	1.8億円	△0.1億円
銅	(4.4億円)	(△0.0億円)	(△4.4億円)
金	(△2.0億円)	(1.9億円)	(4.0億円)

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期増減
売上高	86,258	82,542	△3,716
売上原価	73,517	69,343	△4,173
(売上総利益)	12,741	13,198	457
販売費及び一般管理費	8,835	8,838	3
営業利益	3,905	4,359	453
営業外収益	1,111	1,157	46
受取配当金	442	468	25
為替差益	308	-	△308
テナント退去補償関連費用引当金戻入額	-	259	259
その他	359	429	70
営業外費用	798	1,085	287
支払利息	283	256	△27
休鉱山管理費	334	359	25
為替差損	-	292	292
その他	180	177	△2
経常利益	4,218	4,431	213
特別利益	92	615	522
固定資産売却益	8	591	583
その他	84	23	△60
特別損失	75	390	315
減損損失	48	240	191
その他	26	149	123
税金等調整前四半期純利益	4,235	4,656	420
法人税、住民税及び事業税	612	812	199
法人税等調整額	558	601	43
四半期純利益	3,064	3,242	177
非支配株主に帰属する四半期純利益	100	119	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,964	3,122	158

大阪ビルテナント退去交渉終了に伴う引当金の戻入

為替差損益▲6億円

古河大名ビル(福岡県)の売却益5億83百万円ほか

連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	2019年3月期	2020年3月期 第2四半期	対2019年3月期 増減
資産の部			
流動資産	87,441	82,359	△5,081
固定資産	127,926	126,381	△1,545
有形固定資産	88,289	87,700	△588
無形固定資産	257	334	76
投資その他の資産	39,379	38,346	△1,032
資産合計	215,368	208,741	△6,627
負債の部			
流動負債	60,376	49,423	△10,952
固定負債	74,544	78,927	4,383
負債合計	134,920	128,351	△6,569
純資産の部			
株主資本	68,824	70,126	1,302
資本金	28,208	28,208	—
利益剰余金	41,892	43,194	1,302
自己株式	△1,276	△1,276	△0
その他の包括利益累計額	9,392	7,937	△1,454
非支配株主持分	2,230	2,325	95
純資産合計	80,447	80,389	△57
負債・純資産合計	215,368	208,741	△6,627

現金及び預金、
受取手形及び売掛金、
原材料及び貯蔵品等の減少

支払手形及び買掛金、
電子記録債務等の減少

株価下落による
其他有価証券評価差額金の減少
▲9億円など

■有利子負債(借入金)

(単位:百万円)

	2019年3月期	2020年3月期 第2四半期	対2019年3月期 増減
短期	9,738	9,722	△16
長期 (1年以内返済を含む)	62,859	64,564	1,705
有利子負債合計	72,597	74,286	1,689

2020年3月期業績予想(連結)

【業績予想】

(単位:百万円)

	2019年3月期	2020年3月期 (予想)	対2019年3月期増減
売上高	174,116	164,000	△10,116
営業利益	8,915	7,600	△1,315
経常利益	8,235	7,200	△1,035
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,654	4,800	145

【前提条件】

	2019年3月期	2020年3月期 (予想)	対2019年3月期増減
銅 価	6,341 \$/ト	5,878 \$/ト	△463 \$/ト
為 替	110.9円/\$	108.3円/\$	△2.6円/\$

為替感応度について

1円の円安で年間約1億円の営業利益増

- ・機械事業(主にロックドリル)で約60百万円増
- ・金属部門で約40百万円増

※第3, 4四半期の為替前提は108円/\$

〔売上高〕

(単位:百万円)

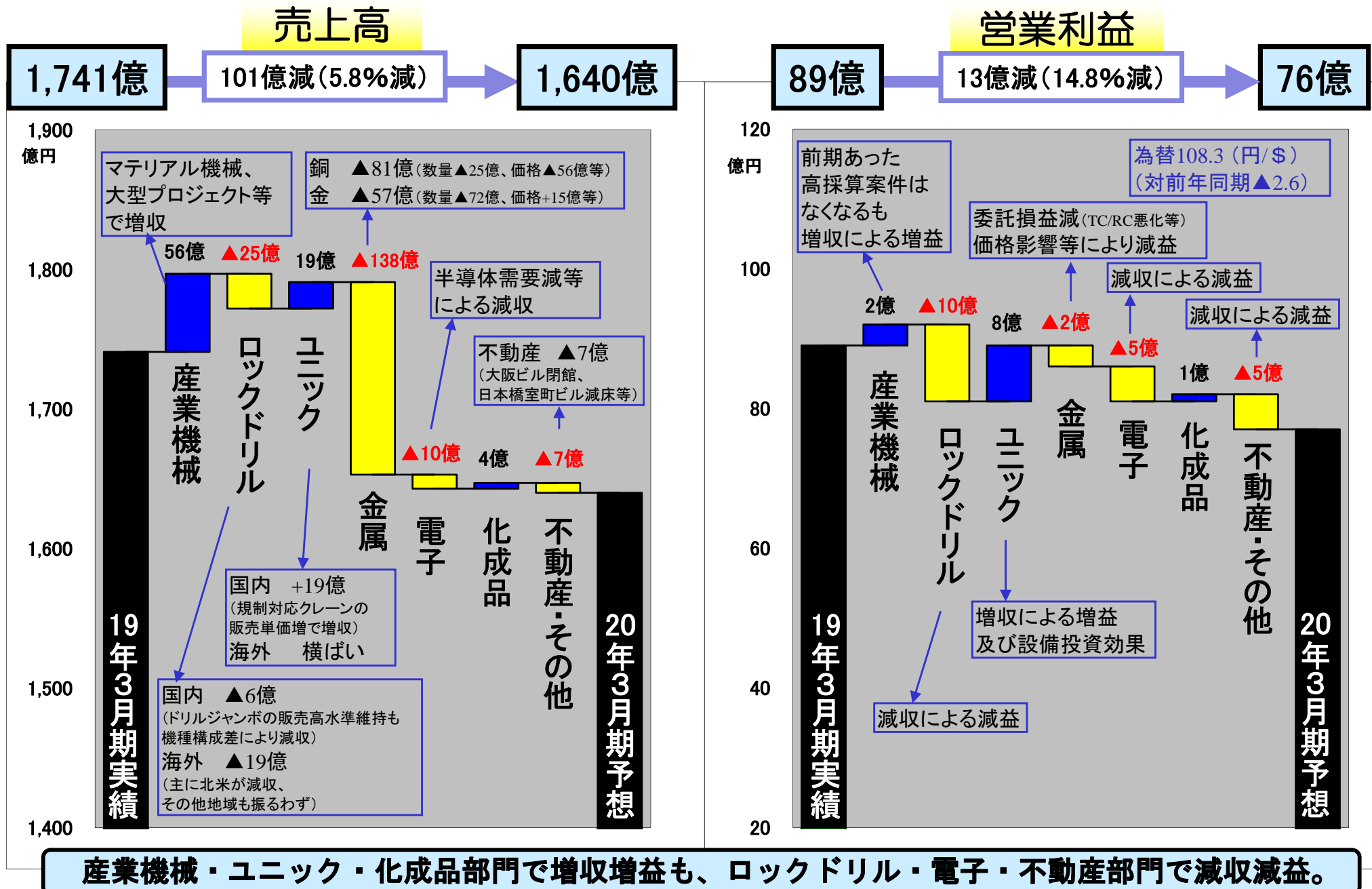
	2019年3月期	2020年3月期 予想	対2019年3月期増減
機械事業	77,580	82,600	5,019
産業機械部門	17,971	23,600	5,628
ロックドリル部門	30,372	27,800	△2,572
ユニック部門	29,237	31,200	1,962
素材事業	92,722	78,300	△14,422
金属部門	80,067	66,200	△13,867
電子部門	6,527	5,500	△1,027
化成品部門	6,127	6,600	472
不動産事業	2,999	2,300	△699
その他	814	800	△14
合計	174,116	164,000	△10,116

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	2019年3月期	2020年3月期 予想	対2019年3月期増減
機械事業	6,567	6,500	△67
産業機械部門	2,088	2,300	211
ロックドリル部門	1,689	600	△1,089
ユニック部門	2,789	3,600	810
素材事業	1,396	650	△746
金属部門	581	300	△281
電子部門	407	△150	△557
化成品部門	406	500	93
不動産事業	1,163	600	△563
その他	△147	△75	72
調整額	△64	△75	△10
合計	8,915	7,600	△1,315

2020年3月期部門別業績予想の増減/ 対前年



2020年3月期業績予想の修正推移(連結)

〔売上高〕

	2019年5月9日発表
機械事業	84,200
産業機械部門	20,800
ロックドリル部門	33,000
ユニック部門	30,400
素材事業	85,900
金属部門	73,100
電子部門	6,400
化成品部門	6,400
不動産事業	2,300
その他	900
合計	173,300

2019年8月6日発表	8月6日発表 対5月9日発表
85,200	1,000
23,600	2,800
30,700	△2,300
30,900	500
78,600	△7,300
66,200	△6,900
6,000	△400
6,400	-
2,300	-
900	-
167,000	△6,300

(単位:百万円)

2019年11月8日発表	11月8日発表 対8月6日発表
82,600	△2,600
23,600	-
27,800	△2,900
31,200	300
78,300	△300
66,200	-
5,500	△500
6,600	200
2,300	-
800	△100
164,000	△3,000

ロックドリル部門の下方修正について
(主に海外の予想との乖離)

期初予想

- ・北米の排ガス規制前の油圧クローラドリルの在庫販売があった前期からの反動減を見込む
- ・北米以外の地域は前期で需要低迷は底を打ち今期は緩やかな回復を見込む

前回予想

- ・上期は市況が改善せずほぼ全域で出荷減を見込み、下期は需要回復を期待

今回予想

- ・主にアジア、アフリカ、中東、南米等で米中貿易摩擦や政治情勢不安、通貨安の影響等により急速な需要回復は見込めず、大幅に下方修正

〔営業利益〕

	2019年5月9日発表
機械事業	7,000
産業機械部門	1,800
ロックドリル部門	1,900
ユニック部門	3,300
素材事業	1,100
金属部門	300
電子部門	350
化成品部門	450
不動産事業	550
その他	△80
調整額	△70
合計	8,500

2019年8月6日発表	8月6日発表 対5月9日発表
7,100	100
2,100	300
1,600	△300
3,400	100
1,000	△100
300	-
250	△100
450	-
550	-
△100	△20
△50	20
8,500	-

(単位:百万円)

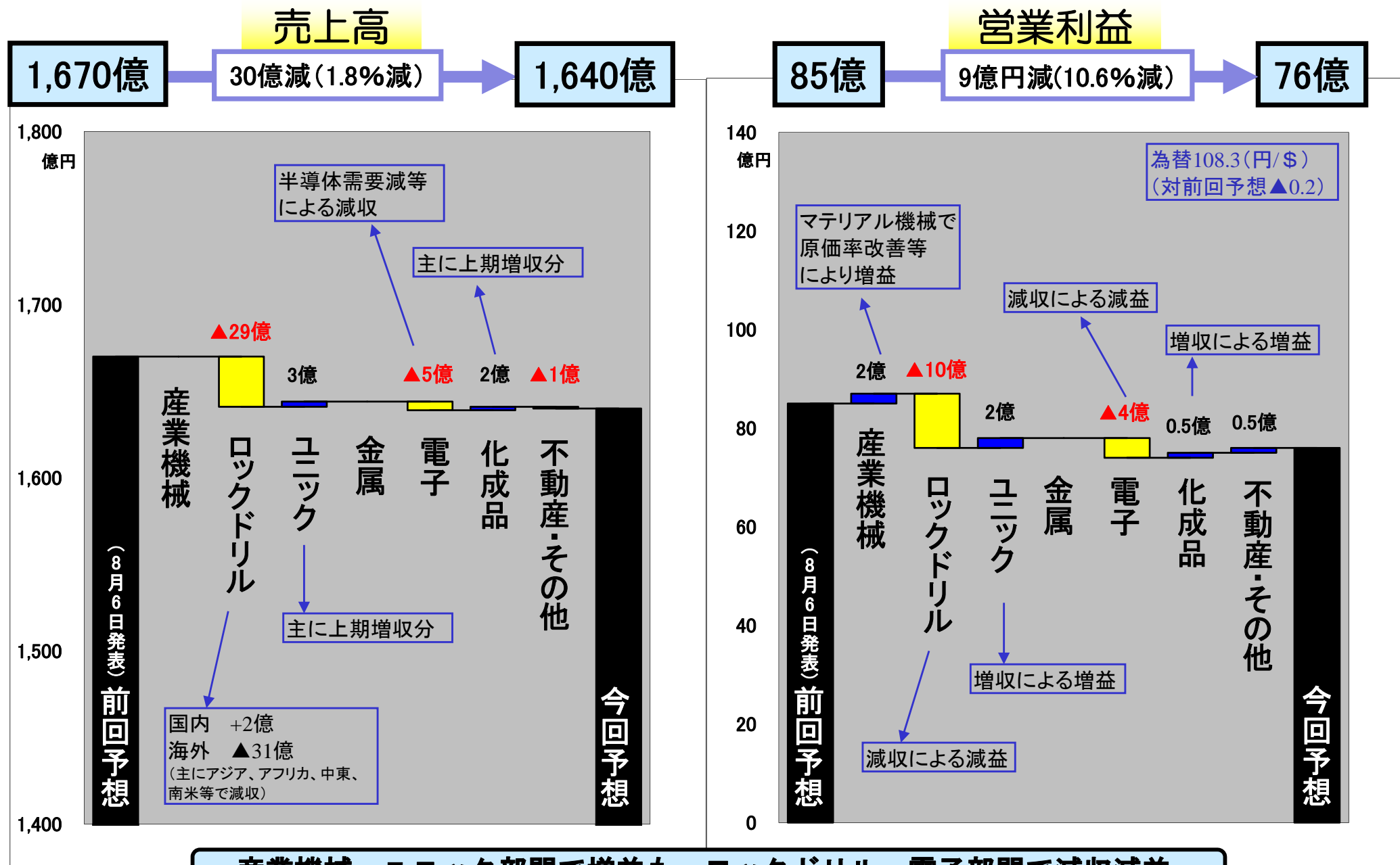
2019年11月8日発表	11月8日発表 対8月6日発表
6,500	△600
2,300	200
600	△1,000
3,600	200
650	△350
300	-
△150	△400
500	50
600	50
△75	25
△75	△25
7,600	△900

金属部門の金属価格変動影響の
損益見込みについて

2020年3月期予想
営業利益 3億円

内、価格影響分+1.4億円
銅▲2.4億、金+3.9億

2020年3月期部門別業績予想の増減/ 対前回予想 (8月6日発表)



産業機械・ユニック部門で増益も、ロックドリル・電子部門で減収減益。

設備投資・減価償却費・研究開発費の状況(連結)

【設備投資の状況(連結)】

(単位:百万円)

設備投資額	2018年3月期	2019年3月期		2020年3月期	
		(第2四半期)	(通年)	(第2四半期)	(通年予想)
機 械 事 業	4,215		4,421		4,700
産業機械部門	358		269		300
ロックドリル部門	535		2,386		3,000
ユニック部門	3,321		1,765		1,400
素 材 事 業	301		375		1,400
そ の 他	505		645		900
合 計	5,021	2,720	5,442	1,958	7,000

高崎吉井工場の
設備投資予定額
2017年から約68億円

佐倉工場の
設備投資予定額
2016年から約87億円

【減価償却費の状況(連結)】

減 価 償 却 費	3,260	1,712	3,473	1,751	3,600
-----------	-------	-------	-------	-------	-------

【研究開発費の状況(連結)】

研 究 開 発 費	2,292	765	1,504	589	1,300
-----------	-------	-----	-------	-----	-------

金属製品・為替・従業員の状況(連結)

【金属製品・為替の状況(連結)】

		2018年3月期	2019年3月期		2020年3月期	
			(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(第3,4四半期想定)
銅海外相場(平均)	¢/ポンド	292.3	294.3	287.6	270.2	266.6
	\$/トン	6,444	6,487	6,341	5,956	5,878
円相場 対米ドル平均(円/\$)		110.85	110.26	110.91	108.63	108.29

《古河メタルリソース(株)生産販売》	2018年3月期	2019年3月期		2020年3月期	
		(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(通年予想)
銅 生産量(t)	88,004	41,956	81,346	39,310	77,138
銅 販売量(t)	90,103	42,581	85,146	40,193	81,323

【従業員の状況(連結)】

	2018年3月末	2019年3月末	2019年9月末	対2019年3月末増減
人員(名)	2,690	2,757	2,794	37

補足資料 過去の部門別業績・業績予想・銅価

〔連結業績〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期(予想)
売上高	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,116	164,000
営業利益	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	8,915	7,600
経常利益	12,940	993	111	1,231	1,268	2,763	6,150	6,603	6,227	7,202	8,105	8,235	7,200
親会社株主に帰属する 当期純損益	8,595	△5,917	585	563	△1,659	2,976	3,976	9,793	5,056	4,254	4,774	4,654	4,800

過去の部門別実績と業績予想

〔売上高〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期(予想)
機械事業	75,841	62,639	44,313	47,025	53,198	56,852	71,111	75,990	72,232	66,803	73,453	77,580	82,600
産業機械部門	17,331	15,836	12,783	10,655	12,949	12,894	18,527	16,712	14,926	14,041	15,871	17,971	23,600
ロックドリル部門	37,497	29,427	20,386	23,880	24,143	23,305	26,842	30,910	30,076	26,979	30,199	30,372	27,800
ユニック部門	21,012	17,375	11,142	12,490	16,105	20,651	25,741	28,367	27,229	25,782	27,381	29,237	31,200
素材事業	112,795	80,174	82,126	92,202	77,961	88,024	90,161	93,269	85,642	78,968	89,987	92,722	78,300
金属部門	97,519	68,786	71,132	79,979	68,114	77,944	78,684	81,513	74,192	67,853	77,334	80,067	66,200
電子部門	8,751	5,568	5,969	7,147	4,615	4,987	5,381	5,743	5,477	5,816	6,307	6,527	5,500
化成品部門	6,525	5,820	5,025	5,076	5,187	5,093	6,096	6,013	5,973	5,298	6,344	6,127	6,600
不動産事業	2,758	2,386	2,043	1,577	1,233	1,058	1,013	2,535	3,045	3,074	3,338	2,999	2,300
その他	1,294	1,204	854	785	766	753	739	747	876	983	916	814	800
塗料部門(※1)	—	—	3,692	15,040	14,874	15,078	—	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	20,735	15,452	9,893	9,004	9,576	3,770	—	—	—	—	—	—	—
合計	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,116	164,000

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期(予想)
機械事業	6,837	1,733	△3,022	△566	1,970	2,923	5,333	6,551	5,882	3,580	5,083	6,567	6,500
産業機械部門	837	767	433	△29	708	778	1,851	1,711	1,037	104	1,005	2,088	2,300
ロックドリル部門	3,702	255	△2,584	△350	333	△67	341	1,225	2,217	897	1,782	1,689	600
ユニック部門	2,297	710	△870	△186	928	2,212	3,141	3,614	2,627	2,578	2,295	2,789	3,600
素材事業	7,660	228	3,985	3,042	325	324	1,695	1,768	983	1,870	1,648	1,396	650
金属部門	6,206	23	3,224	1,494	308	282	1,503	1,449	1,154	1,738	867	581	300
電子部門	984	4	657	1,279	△234	△262	△123	52	△368	17	330	407	△150
化成品部門	470	201	104	269	251	304	315	267	197	114	451	406	500
不動産事業	749	706	1,128	635	356	219	△43	776	1,276	1,265	1,339	1,163	600
その他	△228	△304	△376	△92	△93	△63	△60	△130	△72	△126	△196	△147	△75
塗料部門(※1)	—	—	△19	△93	△329	65	—	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	△430	202	△29	△56	△13	△28	—	—	—	—	—	—	—
調整額	△181	△264	△69	△49	△60	△78	△39	△42	△80	△44	△55	△64	△75
合計	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	8,915	7,600

※1 2013年3月に㈱トウベの株式譲渡により塗料部門から撤退

※2 2012年10月に古河コマース㈱の株式譲渡により燃料部門から撤退

注:「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用(11年3月期)により10年3月期の数値を同基準に置き換えて表示しています

注:2016年3月期以前の売上高、営業利益の素材事業合計については、金属部門、電子部門、化成品部門の百万円以下を切り捨て、足し合わせた参考値です

銅価(\$/ト)	7,584	5,864	6,101	8,139	8,485	7,855	7,104	6,554	5,215	5,154	6,444	6,341	5,878
為替(円/\$)	114.3	100.5	92.9	85.7	79.1	83.1	100.2	109.9	120.1	108.4	110.9	110.9	108.3

補足資料 理解促進コンテンツ紹介

■会社紹介「FURUKAWA 140 YEARS」(映像+ガイドブック)

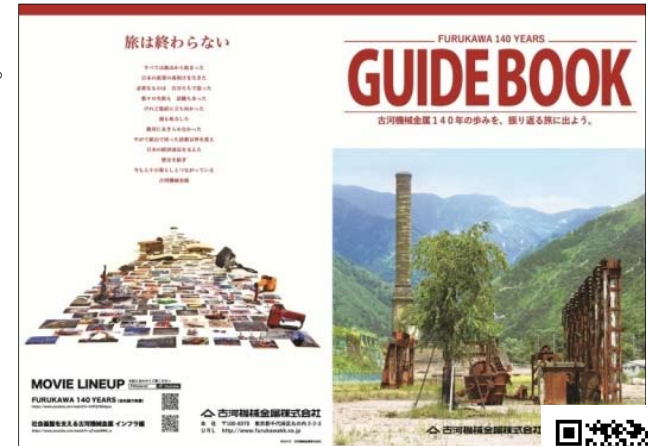


会社紹介映像

<https://www.youtube.com/watch?v=hVFQY8Ahpos>

創業140周年を機に刷新した会社紹介映像及び冊子です。

- ① オープニング「140 years」
…過去から現在までの写真を並べ140年を表現
- ② 「古河機械金属のなりたち」
…足尾銅山の古いフィルムから当社起源を紹介
- ③ 「近代化への道」
…日本の高度成長期にどう関わってきたかを紹介
- ④ 「未来へと続く道」
…現在の主力製品群を紹介



<https://www.furukawakk.co.jp/pdf/guidebook2015.pdf>

ガイドブック(冊子)



■シネマPV「社会基盤を支える古河機械金属 インフラ編」

社会基盤を支える 古河機械金属 インフラ編



インフラ整備の川上から川下まで当社の製品がどのように関わっているかを紹介したイメージPVです。

採掘現場で活躍する「油圧クローラドリル」や「破碎機」トンネル工事に不可欠な「トンネルドリルジャンボ」建設現場でみる赤いクレーンの「ユニック」など、実際の現場で撮影しシネマ化。

https://www.youtube.com/watch?v=gTszdxNNG_w



■HPスペシャルコンテンツ「5分でわかる！古河機械金属」

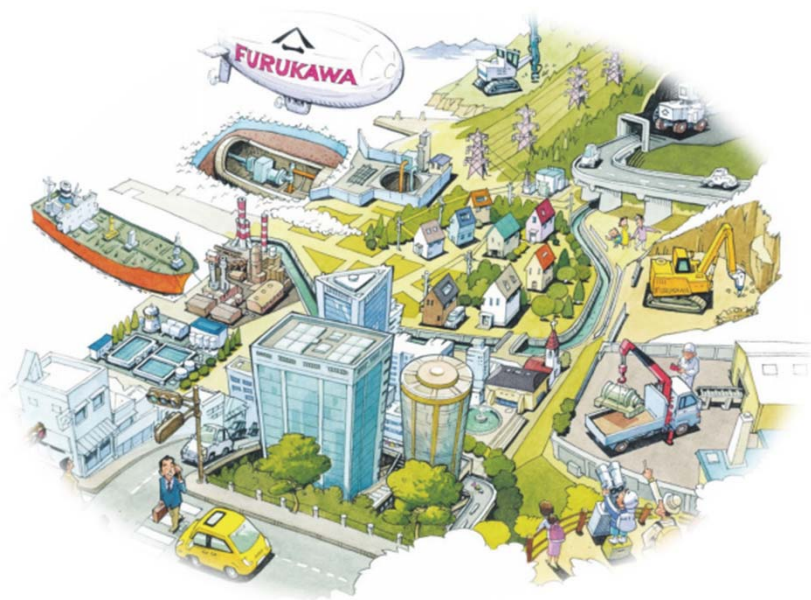


当社の歴史と製品を短い時間でわかりやすく紹介したコンテンツです。

<https://www.furukawakk.co.jp/pdf/others/introduction.pdf>



『 中期経営計画2019 』成果と課題



2019年11月20日

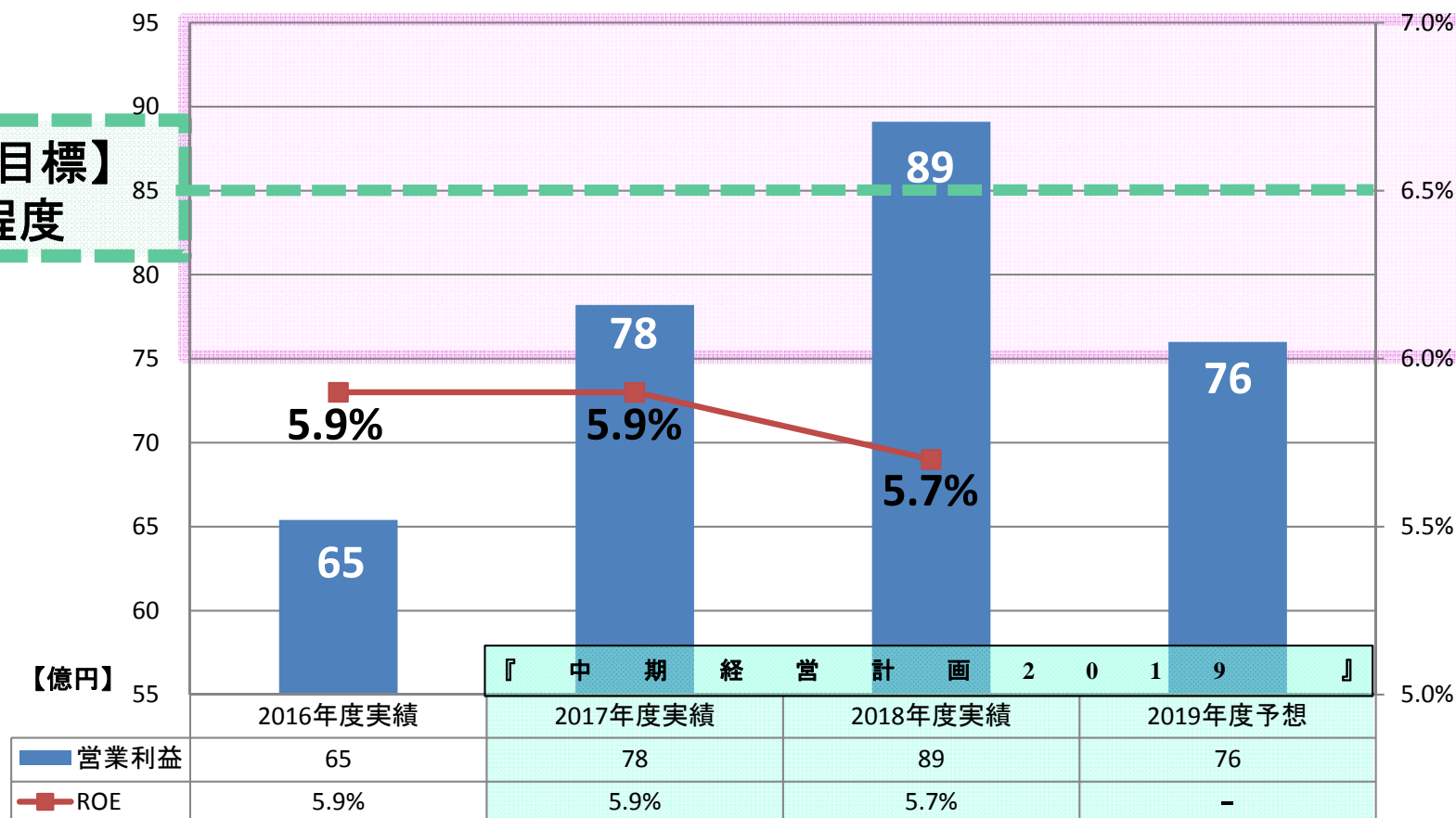
△ 古河機械金属株式会社

Intentionally Blank

経営指標の推移

【営業利益額目標】
85億円程度

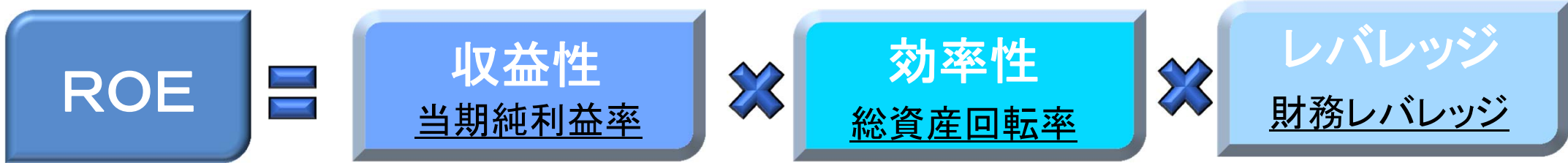
【ROE目標】
6%～7%程度



● 2018年度に達成したものの、『中期経営計画2019』の最終年度である2019年度（予想）は、主にロックドリル部門、金属部門、電子部門、不動産事業が振るわず、9億円の未達となる予想（予想達成率：89%）。

● 2018年度に中期経営計画を上回る89億円の営業利益を計上したものの、古河大阪ビル閉館に伴う減損損失15億円を特別損失として計上したことが主因となり、ROEは5.7%にとどまった。2019年度での達成を目指す。

経営基盤の整備： ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透



2016年度： 5.9% (実績)	2.84%	0.74回	2.80倍
2017年度： 5.9% (実績)	2.85%	0.78回	2.65倍
2018年度： 5.7% (実績)	2.67%	0.79回	2.68倍
2019年度： 6%～7%程度 (目標)	収益性： 改善	効率性： 改善	レバレッジ： 低下

- 2018年度から、資本コストを的確に把握するとともに、事業ポートフォリオの見直しや、設備投資等を含む経営資源の配分等に際し、資本コストを考慮した運用を開始。

セグメント業績の推移/ 売上高

【前提条件】	2016年度(実績)	2019年度想定(イメージ)	2019年度想定(予想)
為替(円/USD)	108.4円/USD	110円/USD	108.3円/USD
LME銅価格	5,154 USD/t	6,000 USD/t	5,878 USD/t

【売上高】

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

	2016年度 (実績)	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (イメージ)	2019年度 (予想)	イメージ比 達成率	2016年度比 増減率
機械事業	66,803	73,453	77,580	84,100	82,600	98%	24%
産業機械部門	14,041	15,871	17,971	20,000	23,600	118%	68%
ロックドリル部門	26,979	30,199	30,372	33,500	27,800	83%	3%
ユニック部門	25,782	27,381	29,237	30,600	31,200	102%	21%
素材事業	78,968	89,987	92,722	79,600	78,300	98%	-1%
金属部門	67,853	77,334	80,067	67,200	66,200	99%	-2%
電子部門	5,816	6,307	6,527	6,400	5,500	86%	-5%
化成品部門	5,298	6,344	6,127	6,000	6,600	110%	25%
不動産事業	3,074	3,338	2,999	2,500	2,300	92%	-25%
その他	983	916	814	1,400	800	57%	-19%
【合計】	149,829	167,695	174,116	167,600	164,000	98%	9%

セグメント業績の推移/ 営業利益

【営業利益】

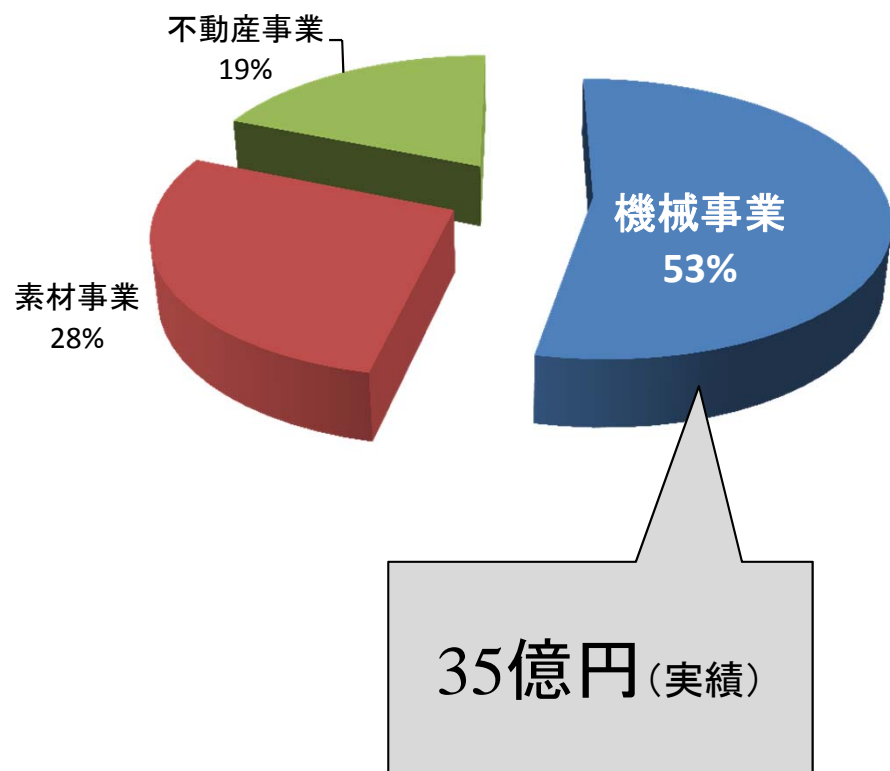
(単位:百万円、単位未満切り捨て)

	2016年度 (実績)	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (イメージ)	2019年度 (予想)	イメージ比 達成率	2016年度比 倍率
機械事業	3,580	5,083	6,567	6,250	6,500	104%	1.8
(*構成比)	(53%)	(63%)	(72%)	(72%)	(84%)	—	—
産業機械部門	104	1,005	2,088	1,250	2,300	184%	22.1
ロックドリル部門	897	1,782	1,689	1,600	600	38%	0.7
ユニック部門	2,578	2,295	2,789	3,400	3,600	106%	1.4
素材事業	1,870	1,648	1,396	1,400	650	46%	0.3
(*構成比)	(28%)	(20%)	(15%)	(16%)	(8%)	—	—
金属部門	1,738	867	581	700	300	43%	0.2
電子部門	17	330	407	300	△150	△50%	△8.8
化成品部門	114	451	406	400	500	125%	4.4
不動産事業	1,265	1,339	1,163	1,000	600	60%	0.5
(*構成比)	(19%)	(17%)	(13%)	(12%)	(8%)	—	—
その他	△126	△196	△147	△40	△75	—	—
(計)	6,590	7,875	8,980	8,610	7,675	—	—
調整額	△44	△55	△64	△110	△75	—	—
【合計】	6,545	7,820	8,915	8,500	7,600	89%	1.2

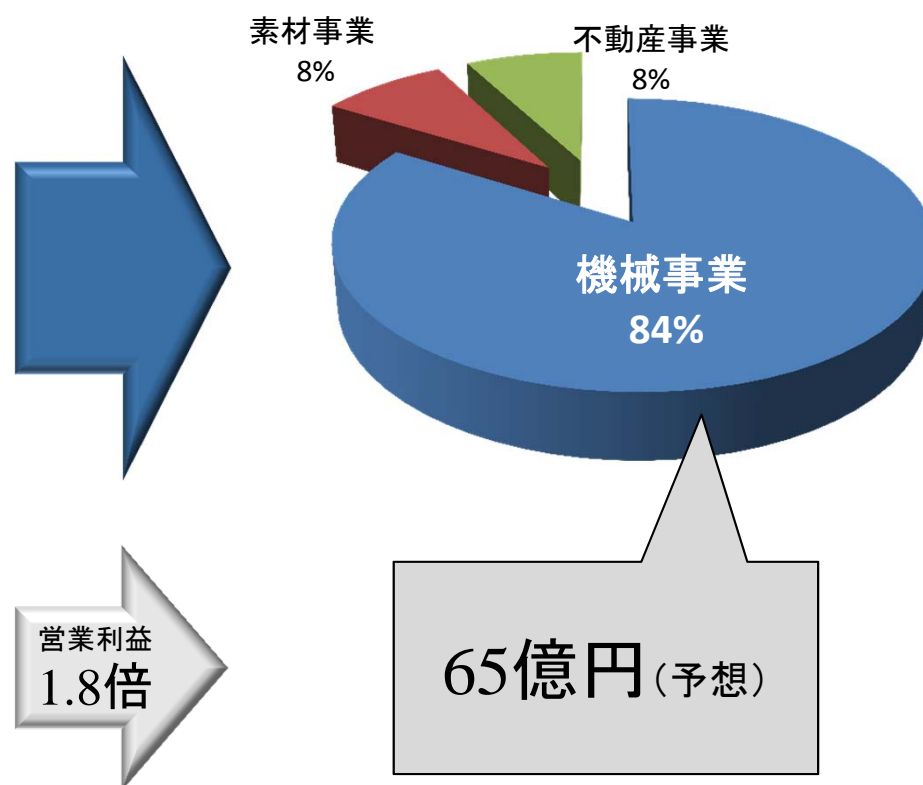
* 構成比は、合計からその他、調整額を除いた額に対する比率

機械事業の持続的拡大

2016年度営業利益構成比(実績)



2019年度営業利益構成比(予想)



基本戦略

セクションプラント工事案件の取り込みおよび大型工事プロジェクト案件などのコントラクタ事業の拡大を図る等、単なる機器メーカーからの脱却を目指した、エンジニアリング力の強化、国内市場における事業基盤の拡充

【主な成果】

- 組織再編により顧客の戦略的パートナーとなるエンジニアリング力を強化
- コントラクタ事業の拡大
独自のベルトコンベヤによる搬送技術提案等が複数の大型工事プロジェクト案件に採用

【主な課題】

- 国土強靱化等の工事プロジェクト案件への技術提案による継続的な受注獲得
- 都市型等の土木工事向け密閉式吊り下げ型コンベヤ SICON®の需要創設
- マテリアル機械の更新需要の取り込み



東京外環自動車道向けベルトコンベヤ

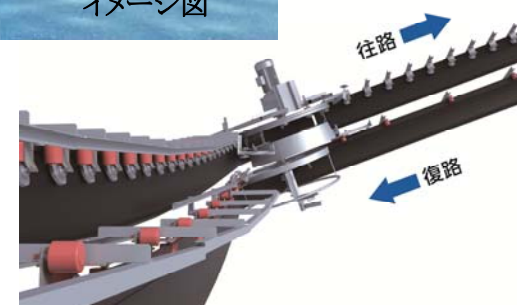


イメージ図

調整池造成工事(東京都)土砂搬送向け密閉式吊り下げ型コンベヤ(新規受注)



小名浜港湾国際バルクターミナル向け荷役機械



SICON®は、ContiTech Transportbandsysteme GmbH社の登録商標

基本戦略

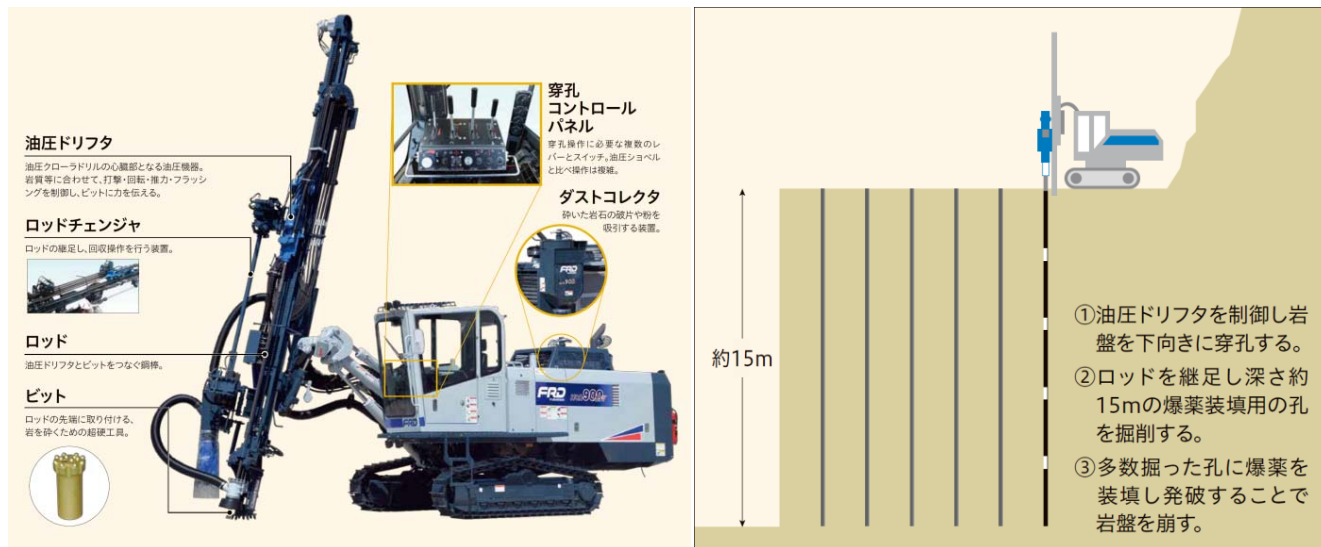
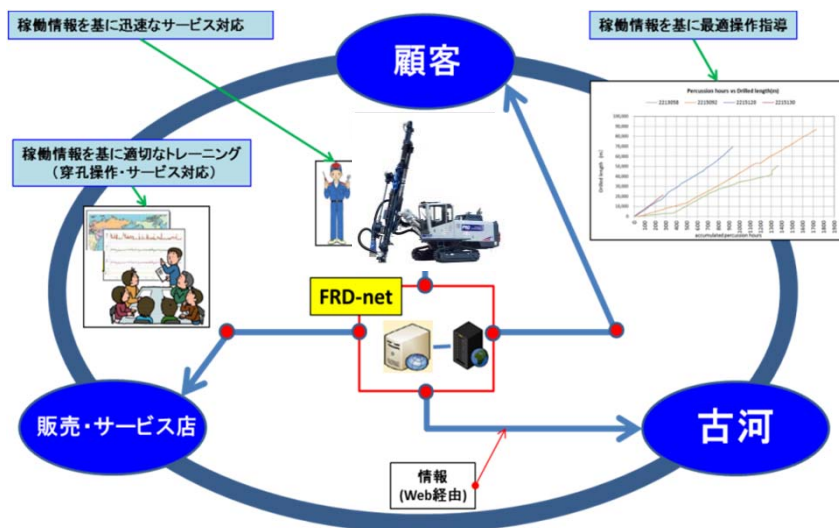
ライフサイクルサポート 機能の強化による、フロービジネス・ストックビジネス両輪での収益拡大と、ドリル製品群(ブラストホールドリル、ドリルジャンボ)の収益基盤の強化を目指した、国内サービスサポート体制の充実と海外販売チャネルの確立

【主な成果】

- ライフサイクルサポート(LCS)機能の強化
油圧クローラドリルの稼働管理システムの完成・運用開始
LCSシステム(データベース基盤)の構築
- 国内ドリルジャンボの周辺作業機ラインナップの強化
(ロックボルト、コンクリート吹付機、支保工エレクトラ等)
- 高崎吉井工場(吉井)の第1期設備増強完了

【主な課題】

- LCSを活用したビジネスモデルの構築
顧客のビジネスに寄与する各種サービス(延長保証、フルメンテナンス、作業効率改善等)によるストックビジネス強化
- 全自動ジャンボの製品化
- 海外ブラストホールドリルの事業基盤の深化
- 海外ドリルジャンボの事業基盤づくり



油圧クローラドリル稼働管理システムを活用した顧客サポート ← 油圧ショベルと比べ油圧クローラドリルは操作が複雑でオペレータの技量によって作業効率が大きく変わる

基本戦略

国内販売での安定的な収益確保とストックビジネスおよび海外販売での収益拡大を目指した、ユニッククレーンの高機能化・高付加価値化などの差別化による競争力強化、中古ビジネスの推進、海外の販売店網の再整備と販売力強化

【主な成果】

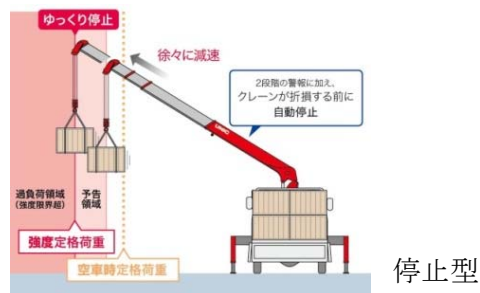
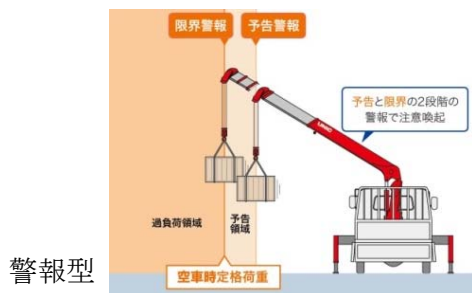
- 国内での確実な収益確保
ユニッククレーンのフルモデルチェンジ機の開発・販売
ML法制化に全機種対応
- 佐倉工場のマザー工場化と三極生産体制の機能強化

【主な課題】

- ミニ・クローラクレーンのモデルチェンジ
- ユニックキャリアのモデルチェンジ
- 海外での製品力・営業力・サービス技術力の強化



厚生労働省による移動式クレーン構造規格の一部改正 (ML法制化) に全機種対応



佐倉工場の設備投資内容と効果

設備投資項目	内 訳	効 果
1.油圧部品製造工程改革	①油機工場	<ul style="list-style-type: none"> 工数減⇒内製化推進 加工クレーム減 効率性アップ 収益性アップ
	②組合せ検査場	<ul style="list-style-type: none"> 顧客満足度向上 社員満足度向上
2.架装工程改革		<ul style="list-style-type: none"> 輸送費減 外注架装費減 納期短縮 効率性アップ 収益性アップ
3.塗装工程改革	①カチオン電着ライン ②仕上塗装ライン	<ul style="list-style-type: none"> 顧客満足度向上 工数減 効率性アップ
4.レイアウト改革		<ul style="list-style-type: none"> 工数減 効率性アップ
5.生産設備更新 作業環境改善	本工場機械装置他	<ul style="list-style-type: none"> 操業維持 社内外注費減 効率性アップ
6.事務・研修棟建設	①事務室、食堂・更衣室他	<ul style="list-style-type: none"> 各部門近接化によるコミュニケーション増 社員満足度向上
	②ショールーム	<ul style="list-style-type: none"> 商談チャンスの増加

素材事業・不動産事業

	【主な事業戦略】	【主な課題】
金属部門	<ul style="list-style-type: none"> 採算重視の最適生産・販売体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 委託製錬の位置づけ
電子部門	<ul style="list-style-type: none"> 成熟製品から戦略製品への移行 	<ul style="list-style-type: none"> コイル：機械化による生産効率・品質管理の向上、ハイブリッドコイルの上市 窒化アルミ：事業拡大、収益性の向上 光学部品：DOEの用途・販路拡大
化成品部門	<ul style="list-style-type: none"> 既存製品の収益拡大と新規開発製品の早期事業化・育成 	<ul style="list-style-type: none"> 金属銅粉：品質、供給、販売体制を整え、サンプル展開から販路拡大
不動産部門	<ul style="list-style-type: none"> 室町古河三井ビルディングの安定収益確保と、保有する不動産の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 古河大阪ビルの将来構想の決定

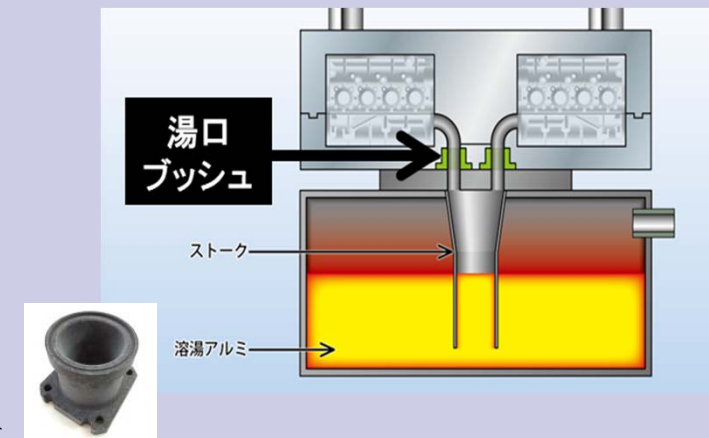
その他トピックス

「アルミ鋳造用耐溶損技術の開発」が素材産業技術表彰において「経済産業大臣賞」を受賞

産業機械部門のグループ会社：古河キャステック㈱と日産自動車㈱が共同開発。

本開発は、古河キャステック製「トケナイト」を用いることで、自動車エンジンのシリンダヘッドの鋳造工程でおこっている、①金型内の薄肉部分にアルミニウム合金溶湯が流れ込まない鋳造不良現象と、②溶損現象により金型入口が浸食され寿命が短くなるという2つの課題の解決を目的としたもの。

これにより金型交換や保守作業を低減し生産効率を大幅に改善させることができ、コスト低減による経済性の向上だけでなく、資源削減による省資源・省エネ効果も大きく環境配慮にも寄与していることなどから、高い評価を受けました。



トケナイト製湯口ブッシュ

人材基盤の拡充強化

基本戦略

社員一人ひとりが能力を最大限に発揮して新たな価値を創造することができ得る働きがいのある会社の実現

【主な成果】

- 経営人材育成プログラム導入
- 社員制度の一括改訂

【主な課題】

- 働き方改革の推進
年間総労働時間の削減、多様な働き方の推進等
- ダイバーシティの推進
女性社員・障がい者雇用の強化等

開発推進体制

基本戦略

機械、素材の分野を超えた柔軟な発想で開発効率、開発スピードを高めるとともに、新製品開発の活性化を目指して、各事業部門と開発本部とが一体となり開発を推進

【主な成果】

- 組織再編を行い技術統括本部に改組し、新たに技術戦略部を創設して事業部門との連携を強化
- 古河ロックドリル(株)との共同開発により、先端技術部にて全自動ジャンボの制御システムを構築
- 古河ロックドリル(株)のブラストホールドリル用ドリルシミュレータを共同開発

【主な課題】

- 開発製品の製品化・事業化
- 全固体電池用の固体電解質の材料及び量産化技術の開発推進

補足資料：古河機械金属グループの価値創造プロセス

経営理念

古河機械金属グループは、鉱山開発に始まり社会基盤を支えてきた技術を進化させ、常に挑戦する気概をもって社会に必要とされる企業であり続けます。



カテゴリトップ・オンリーワン



製品サービス

価値創造

- 社会インフラ整備
- 安全で環境に優しい豊かな社会の実現



社会課題
ニーズ

● 2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」

カテゴリトップ・オンリーワンを基軸として成長する企業グループの実現

<ビジョン達成のための方針>



『マーケティング経営』^(注)による
古河ブランドの価値向上

機械事業の
持続的拡大

人材基盤の
拡充・強化

企業価値向上に
資する投資等の
積極的推進

経営基盤の整備

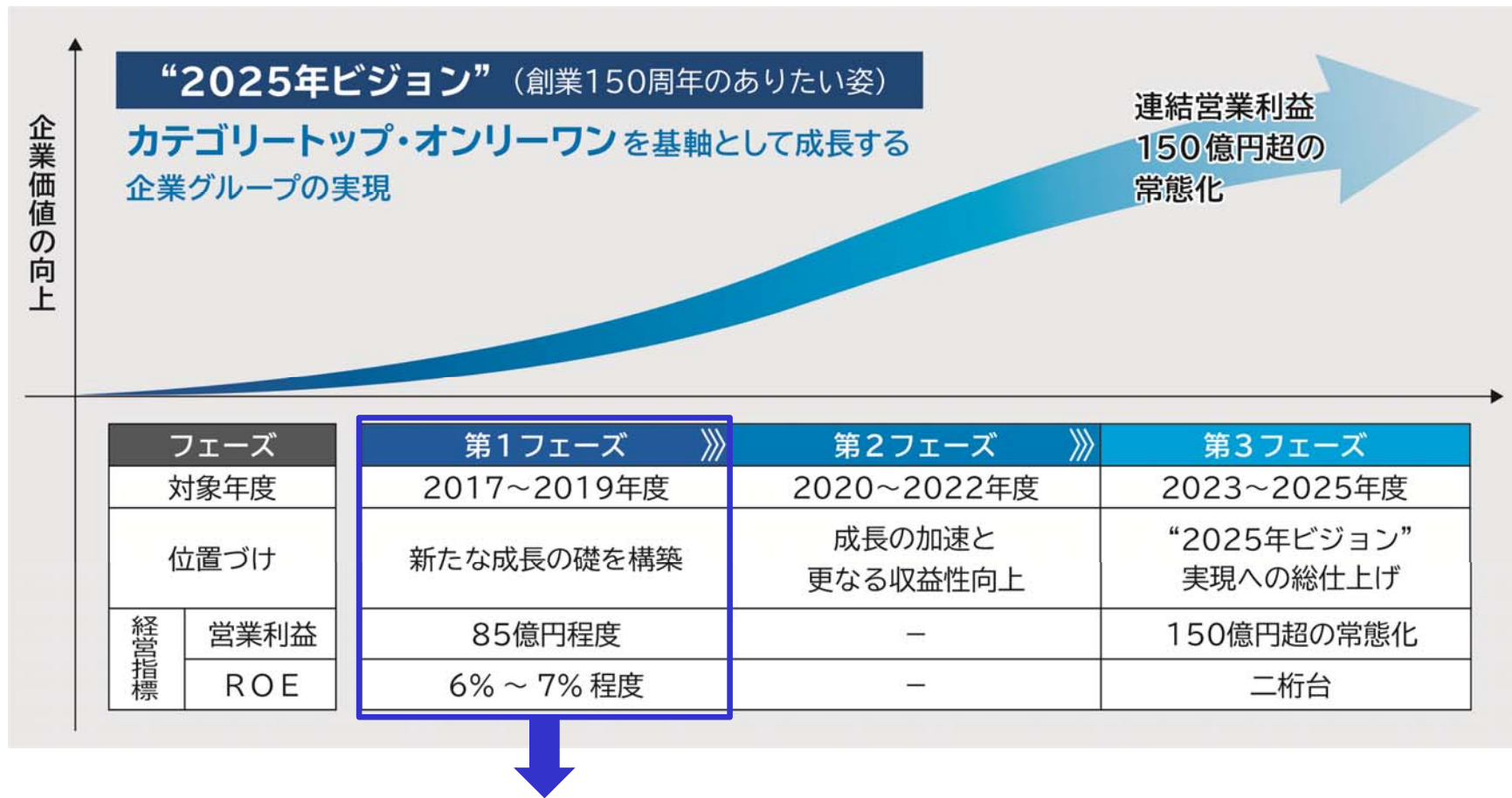


2025年度(創業150周年)に向けて

連結営業利益150億円超の常態化

(注)『マーケティング経営』という言葉に、マーケティングを経営の根幹に据え、激変する市場の中で価値を認められる製品やサービスを提供するとともに、顧客が抱えている課題や問題を見つけ出し解決することにより、顧客との絆を深めながら、持続的に成長し企業価値を高めていきたいとの意を込めました。

● “2025年ビジョン”と『中期経営計画2019』の位置づけ



- 当社は“2025年ビジョン”において初めて「ROE」を経営指標として採用。
 『中期経営計画2019』から、「ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透」を開始。

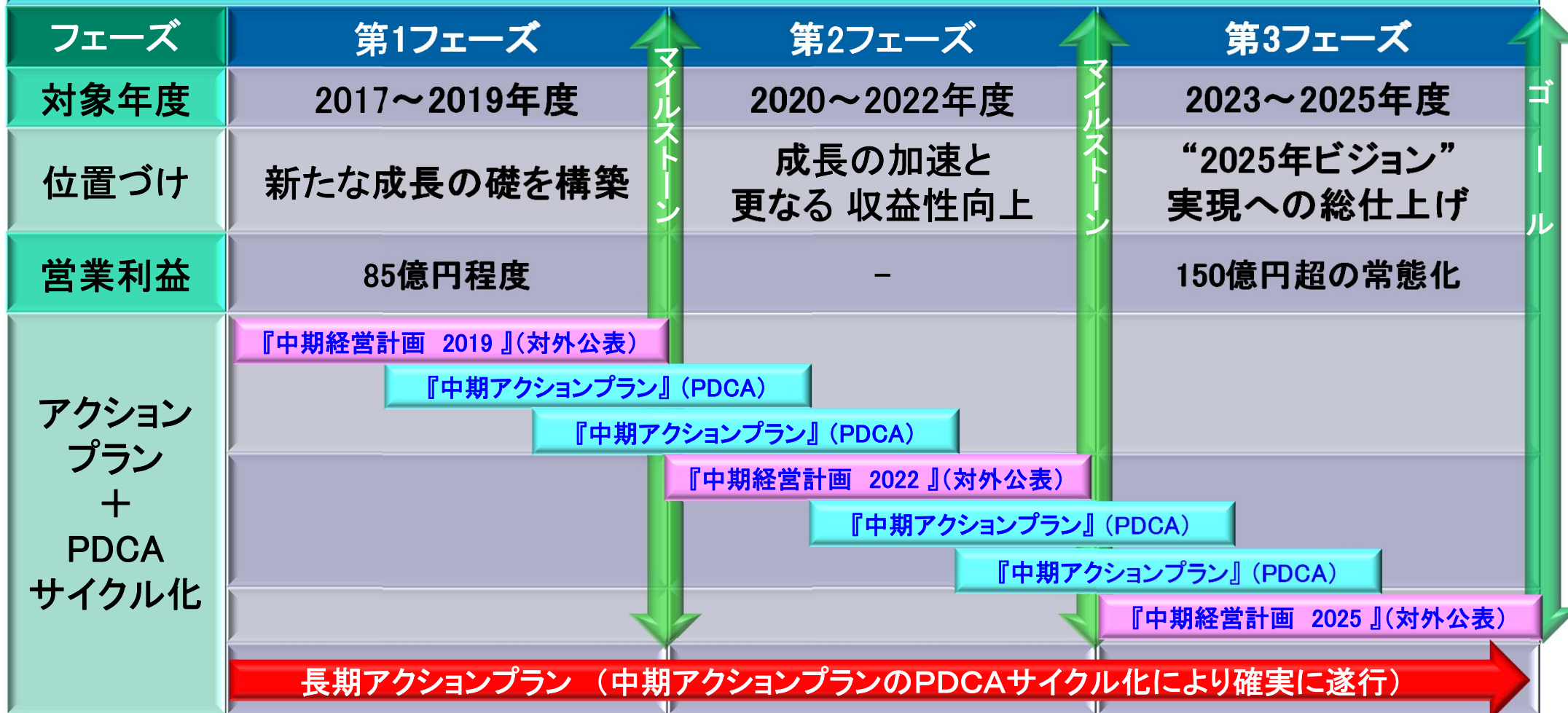
- 部門ごとに策定した具体的なアクションプランの遂行を徹底的にフォローアップするため、PDCAのサイクル化を導入。

“2025年ビジョン”「FURUKAWA Power & Passion 150」

(創業150周年のありたい姿)

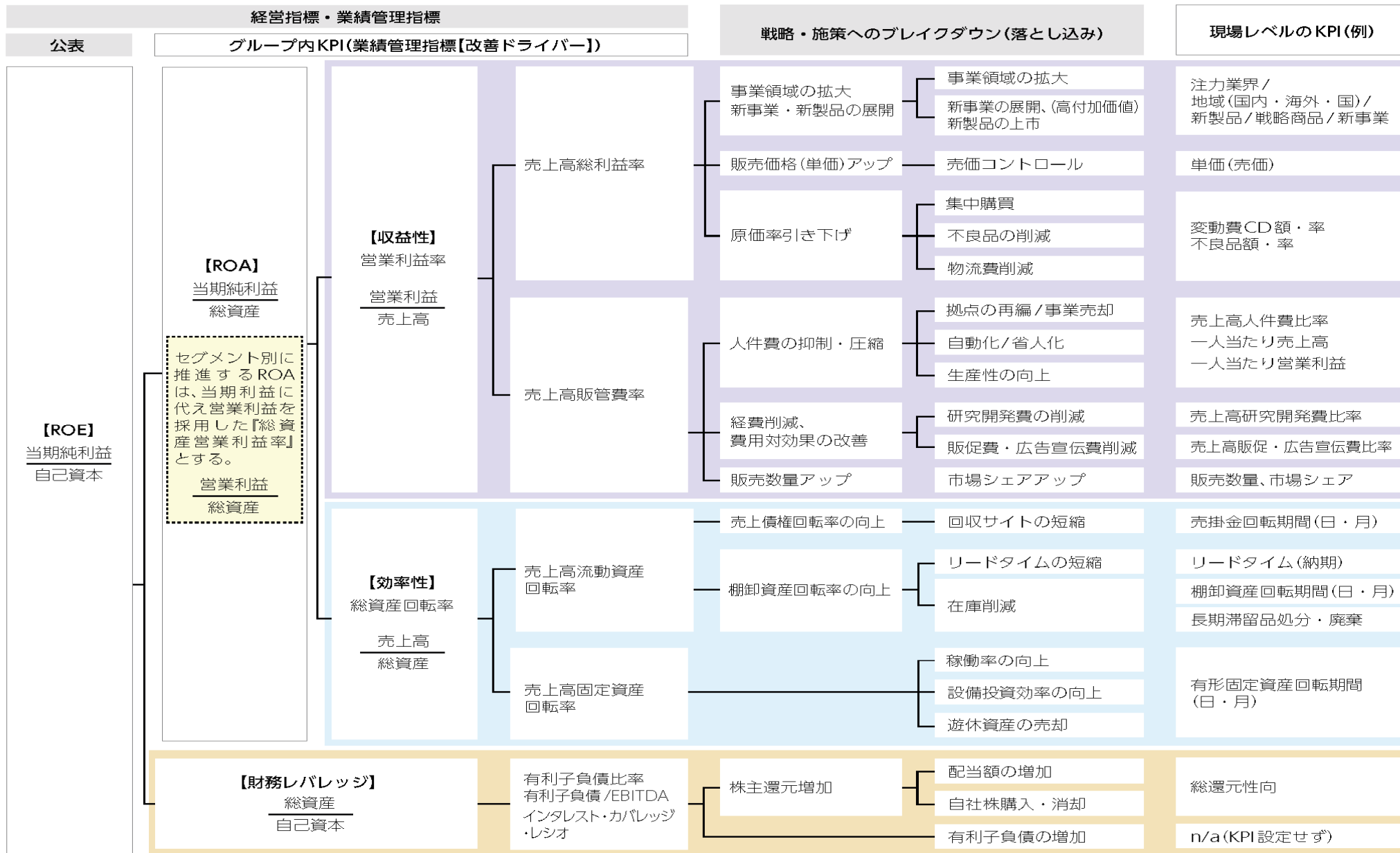
カテゴリートップ・オンリーワンを基軸として成長する企業グループの実現

－ 創業150周年を迎える2025年度に向けて、連結営業利益150億円超の常態化を目指します －

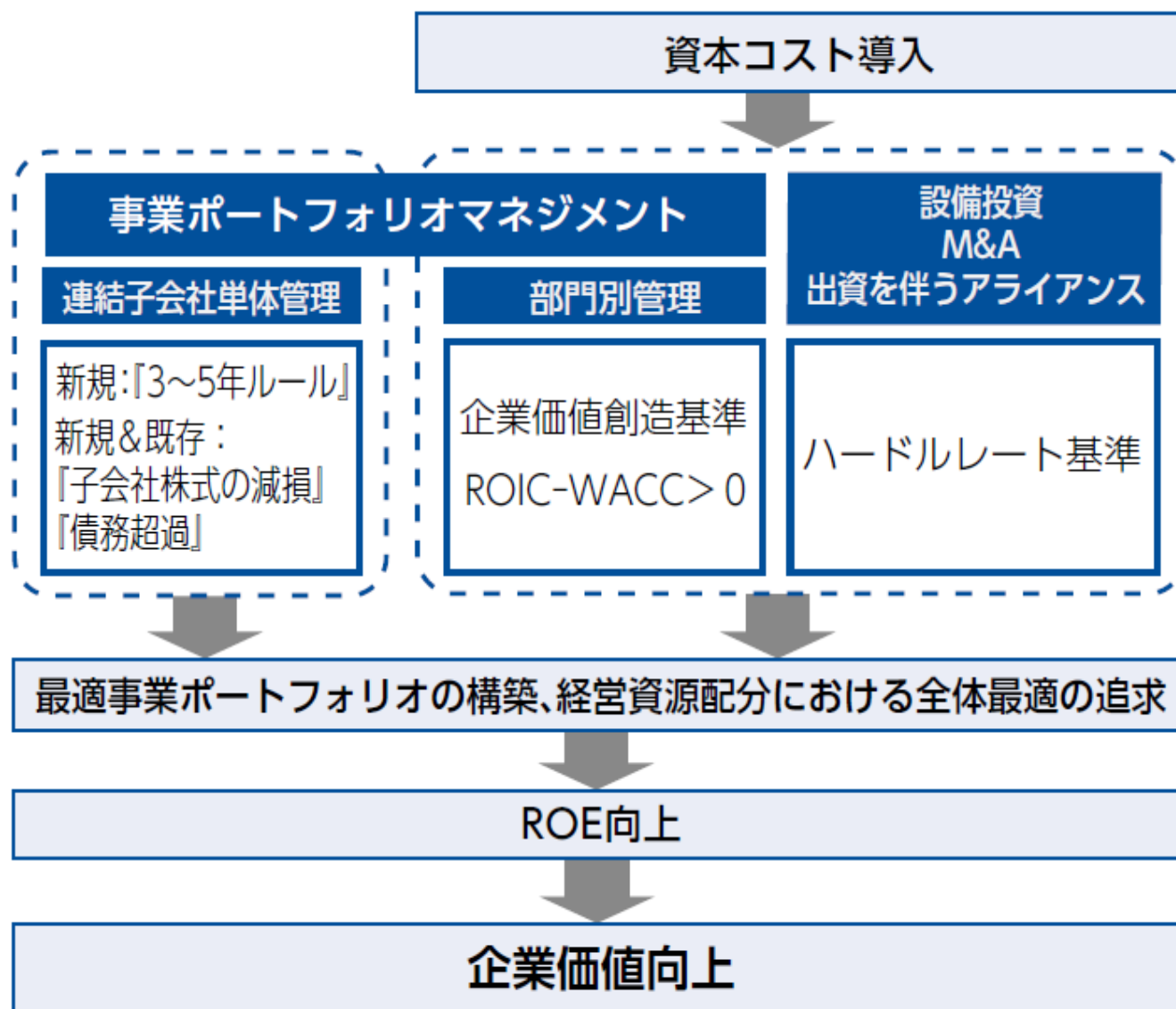


● 企業価値創造のためのROEツリーの活用を全社的な取り組みとして開始

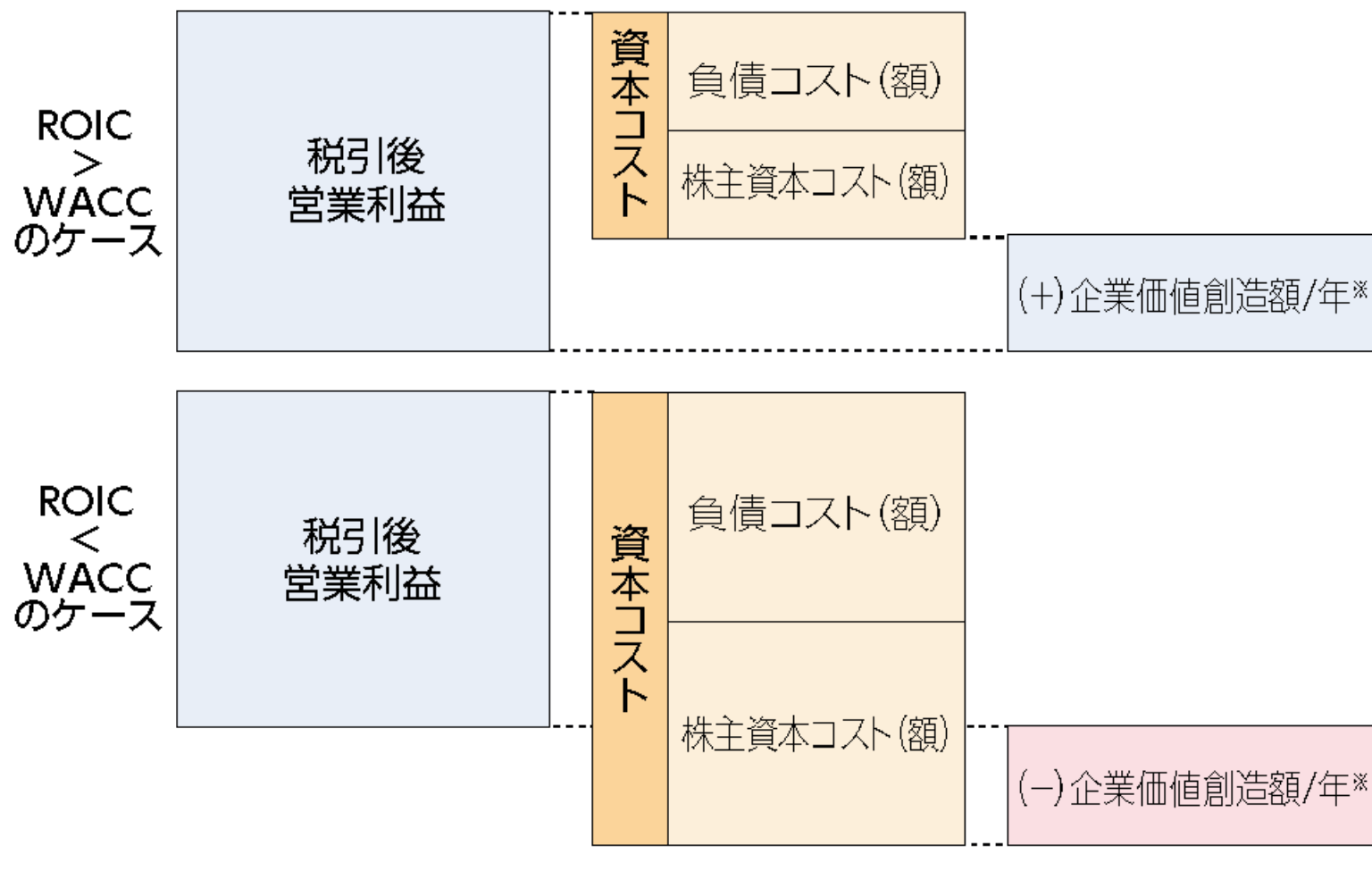
● 企業価値創造のためのROEツリー



● 事業ポートフォリオマネジメントの概要



● 「企業価値創造」のイメージ図と計算式



計算式

ROIC	-	WACC	=	企業価値創造力*
(企業価値創造力* × 投下資本) ÷ 100				= 企業価値創造額/年*

※ 「企業価値創造力」、「企業価値創造額/年」は当社造語

● 事業ポートフォリオの識別・可視化を目的としたバブルチャート

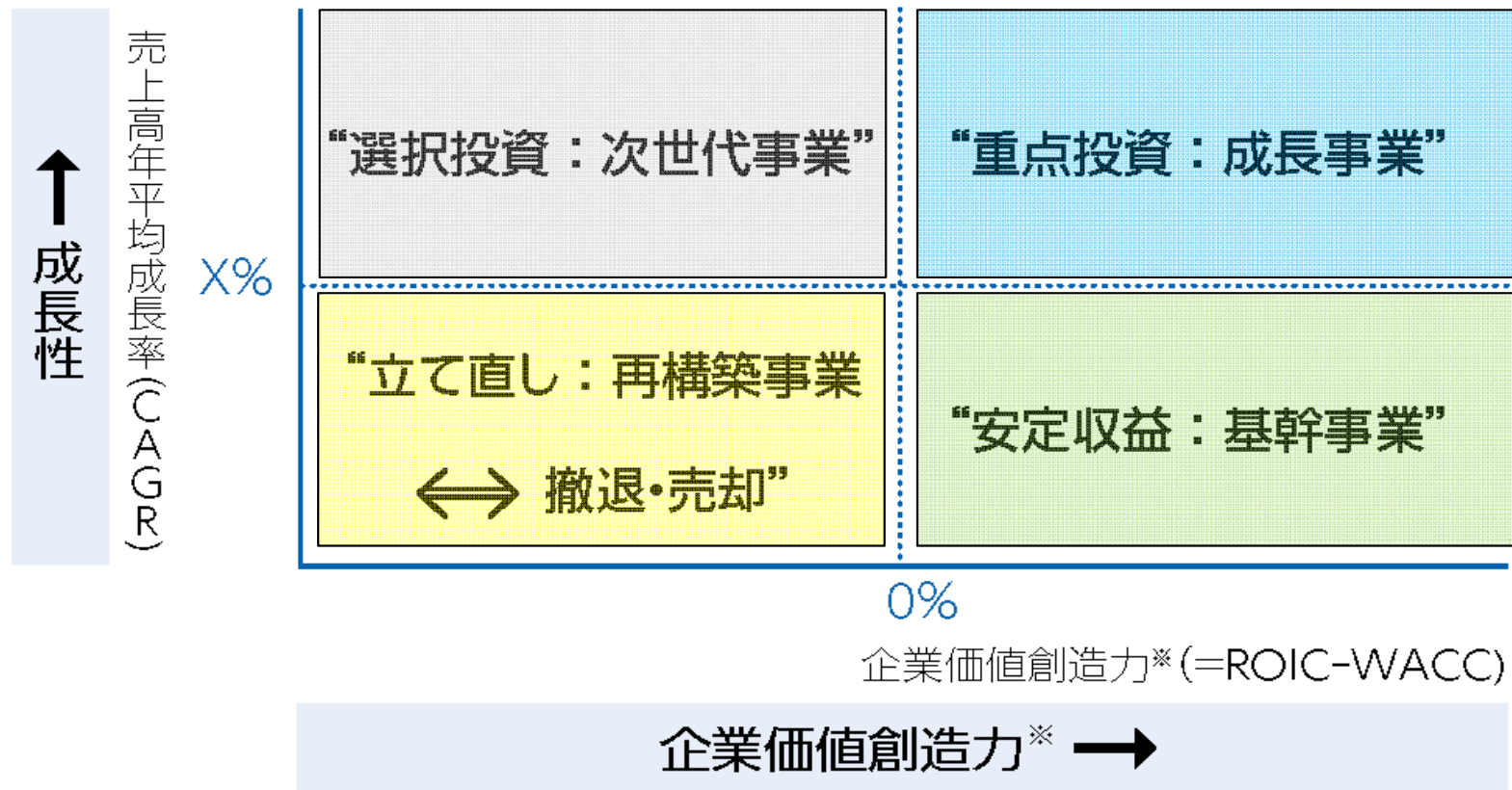
〔事業部門ごとに算定する3つの評価指標〕

X 軸：企業価値創造力* (=ROIC-WACC)

Y 軸：売上高年平均成長率 (CAGR)

バブルの大きさ：企業価値創造額/年* [(企業価値創造力* × 投下資本) ÷ 100]

下記グラフに各事業部門の3つの評価指標を図示し、企業価値創造を識別・可視化



※ 「企業価値創造力」、「企業価値創造額/年」は当社造語

【将来の見通しに関する記述等についてのご注意】

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しております。実際の事業環境・事業活動は、様々な潜在的リスク、不確定要因を含んでおり、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性があります。

将来の見通しに影響を与え得る潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、これらの項目に限定されるものではありません。

したがって、本資料に記載されているマイルストーンとしての経営指標や予測の達成および将来の業績を、当社として確約、あるいは保証するものではありません。

なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本資料の日付以降において、本資料に記載された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の責任においてご判断いただきますようお願いいたします。

本資料は、利用者の責任でご利用ください。本資料に含まれる情報の誤りや瑕疵、マイルストーンとしての経営指標や予測数値等の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ご清聴有難うございました



 **古河機械金属株式会社**